

---

## マーケット展望 NYダウは35,000ドルを突破 決算発表で日本株の巻き返しに期待 作成者:森田 潤

---

### オリンピックが無観客で開幕

オリンピック東京大会が開幕した。新型コロナで1年延期となり、その後も紆余曲折はあったが、7月23日になんとか開会式が行われた。無観客で行われるセレモニーや競技の中継をテレビで観ているが、仕方ないとはいえ、正直なところ寂しいあるいはもったいないという印象を拭えない。最終的に世論を重視して無観客とするなら、早く判断して無観客を前提とした演出を準備する選択もあったのではと思う。

### イギリスは感染拡大の中コロナ規制を撤廃

一方で、世論が割れる中で大胆な判断をしたのがイギリスのジョンソン首相だ。イギリスでは変異株の拡大で連日数万人の新規感染者が出ているが、政府は19日、イングランドで実施していた新型コロナ感染防止にかかるほぼすべての規制を撤廃した。ニュースではナイトクラブのお祭り騒ぎの映像が象徴的に流れていたが、ワクチン普及で日々の死者数は大幅に減っているとはいえ、市民の間でもさすがに一気に規制全廃というのは性急過ぎるという意見が多いようだ。

### 米国でも再拡大、景気の先行きを警戒？

変異株の拡大は米国でも同様で、一時1万人程度まで減少していた日々の新規感染者は足元で5万人前後まで増加しており、イギリスとは逆に緩和したマスク着用規制の強化の動きもある。感染が再拡大する中で、16日に発表されたミシガン大消費者マインド指数が予想外に低下したことなどから、景気の先行きを警戒する声も高まった。NYダウは16-19日の2営業日で1,000ドル超下落して34,000ドルを割り、10年債利回りも一時1.1%台前半まで低下した。

### 好業績背景に米国株は最高値更新

しかし、その後は発表された企業業績が好調だったことから株価は切り返し、23日にはNYダウは35,000ドルを終値で初めて突破、S&P 500、ナスダック指数とともに史上最高値を更新した。景気の先行きへの警戒も深刻なものではないのだろう。また、消費者マインドは物価上昇への懸念もあって低下したが、消費自体は堅調だ。6月の小売売上高は前月比0.6%増となり、減少するとの市場予想を上回った。行動制限の解除でモノ消費からコト（サービス）消費へのシフトが進んでいるとされるが、実際にはモノ消費も底堅く推移している。供給制約への懸念はあるが、先行きの販売増に期待する声も多い。

### 足元の中国景気はまずまず

世界景気を占う上で気になる中国経済を見ても、今月発表された指標は悪くなかった。4-6月期のGDP成長率は、前年同期比では7.9%増と市場予想の8.1%増を下回ったが、前期比では1.3%増と予想の1.2%増を上回り、1-3月期の0.4%増から上向いた。6月の鉱工業生産は前年同月比8.3%増、小売売上高も同12.1%増とまずまず堅調で、市場の予想を上回っている。中国経済について、勢いの衰えを指摘する声は少なくないが、今のところ過度に懸念する状況ではなさそうだ。

### 国内ではコロナ治療薬承認、ワクチン調達も急ぐ

国内・海外を問わず、先行きの懸念材料となっているのが変異株による新型コロナの感染再拡大だろう。国内では足元の感染拡大に歯止めがかかっていないが、明るい材料もある。19日、中外薬（4519）の「抗体カクテル療法」が国内で4番目の新型コロナ治療薬として特例承認された。投与対象者は限られるが、海外の治験では入院や死亡のリスクを7割減らすとされており、重症者病床のひっ迫回避に効果が期待

される。また、不足しているワクチン供給についても動きはあった。20日に米モデルナと**武田 (4502)** から2022年初めにも5,000万回分の追加供給を受ける契約の締結が発表されたほか、23日には菅首相が来日した米ファイザーのCEOと会談しており、供給前倒しなどについて何らかの要請がなされたと推測される。今後の状況改善に期待したい。

## 8月は企業業績と ジャクソンホール 会議に注目

さて8月の相場を見通すにあたり、スケジュール面で注目されるのは、26日から開催されるジャクソンホール会議だろう。市場では、パウエル議長が講演で量的緩和縮小について示唆するとみる向きが多い。混乱なく金融政策を正常化させるため、恐らく議長は市場にサプライズを与えないよう今後の道筋を示すだろう。金融面でサプライズがなければ、重要なのは企業業績だ。米国企業の業績は総じて良好で、国内主要企業でも**キヤノン (7751)** が21.12期の通期予想を上方修正するなど、ここまではおおむね順調といえる。ただ、一部内需企業ではさえないものもあり、**ファストリ (9983)** は21.8期見通しの下方修正を発表、株価も安値を更新した。ファストリの影響も大きい日経平均は想定以上に重い値動きで、3万円回復は遠くなっている。米国株との格差は広がっているが、決算発表が進む中で良好な業績が確認できれば、見直し買いも入るだろう。相対的に底堅いTOPIXは3月につけた年初来高値 (2,012.21) に迫る場面もあると期待している。

◇2021年8月の主なスケジュール

日本	米国	その他海外
02:7月新車販売台数 03:7月東京都都区部CPI  06:6月景気動向指数(速報値) 08:オリンピック競技大会閉会式 08:山の日(祝日) 09:振替休日(休日) 10:7月景気ウォッチャー調査 11:7月工作機械受注  16:4-6月期GDP(速報値)  18:6月機械受注 18:7月貿易統計  20:7月全国CPI  23:8月IHSマークイットPMI(速報値) 24:パラリンピック競技大会開会式  30:7月小売業販売額 30:7月百貨店・スーパー販売額 31:7月鉱工業生産 31:7月失業率、有効求人倍率 31:7月住宅着工件数 ~8月中旬:4-6月期決算発表	02:7月ISM製造業指数 03:6月製造業新規受注 04:7月ADP雇用統計 04:7月ISM非製造業指数 05:6月貿易収支 06:7月雇用統計  11:7月CPI 12:7月PPI 13:8月ミシガン大学消費者信頼感指数 16:8月ニューヨーク連銀製造業景況感指数  17:7月鉱工業生産 17:7月小売売上高 18:7月FOMC議事要旨 18:7月住宅着工件数 19:7月景気先行指数 19:8月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数  23:7月中古住宅販売件数 23:8月IHSマークイットPMI(速報値) 24:7月新築住宅販売件数 25:7月耐久財受注 26:4-6月期GDP(改定値) 26:ジャクソンホール会議(-28) 27:7月個人所得、消費支出、PCEデフレーター  31:8月コンファレンスボード消費者信頼感指数 31:8月シカゴ購買部協会景気指数 ~8月中旬:4-6月期決算発表	02:7月中国財新製造業PMI 03:6月ユーロ圏PPI 04:6月ユーロ圏小売売上高 04:7月中国財新サービス業PMI  10:8月独・ユーロ圏ZEW景況感指数  12:6月ユーロ圏鉱工業生産  16:7月中国鉱工業生産 16:7月中国小売売上高 17:ユーロ圏4-6月期GDP(改定値)  23:8月ユーロ圏消費者信頼感 23:8月ユーロ圏IHSマークイットPMI(速報値)  25:8月独IFO企業景況感指数  31:8月中国国家統計局PMI 31:8月ユーロ圏消費者物価指数(HICP、速報値)

(出所)CAM作成

※予定は変更になることがあります。

## ◇CAMの株価・金利・為替予測

項目	2021年7月26日実	8月予	9月予	10月予
日経平均株価 円	27,833.29	27,000~30,000	27,500~30,500	27,500~30,500
10年国債利回り %	0.005	-0.05~0.10	0.00~0.15	0.00~0.15
為替 (円/ドル)	110.20~110.22	109~113	109~113	109~113